

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 16日

事業所名 こども通所センターふれんど

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			集団活動スペースは十分確保されており、集団が苦手な子供に対して、落ち着いて過ごせる個室部屋も整備している
	2 職員の配置数は適切である	○			現在は職員8名(常勤3名、非常勤5名)体制で運営している
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			玄関はスロープを設置しており、段差を解消している。またトイレは洋式で多目的トイレも1か所完備している
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		PDCAサイクルに関する会議は行っていないが、日々の業務改善等については、朝夕のミーティング時に申し送りと振り返り・評価を行っており、月1回課題改善に向けた会議(全員参加)も開催している
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年1回のアンケート調査を実施し、利用者に意見を組み込んだ業務改善に取り組んでいる
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を事業所玄関に掲示公表している他、お知らせでも回答している。今後はホームページ等での公開も行ってほしい
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	外部評価は実施していないが、機会があれば積極的に実施していきたい
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員が希望する研修には積極的に参加させるほか、取得した知識等はOJTの開催で、他職員に情報提供し共有している	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			定期的に保護者への聞き取りや、本人の状況状態からアセスメントを行い、ニーズや課題の把握分析に努め、これらに沿った支援計画書を作成している
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			現在は簡易のアセスメントツールを使用しているが、特に問題は生じていない。必要に応じてより適切なアセスメントツールへと変更していきたい
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			敢えてチーム分けは行わず、活動目的や内容を全員で話し合い、皆の意見を取り入れながら組み立てることによりワンチームでの支援を行っている
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			平日は短時間の利用となる為、プログラム作成に苦慮する場合も有るが、可能な限り地域の公共施設を利用するなどマンネリ化を防いでいる。長期休暇はお出かけを取り入れ、子供たちが様々な体験が出来るようにプログラミングしている
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇中は、この時期にしか出来ないプログラムを計画実施し、その中でも個々の課題を把握分析し、これに応じた支援を行っている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動中の状況を細かく把握分析し、これに応じた計画を作成して支援に取り組んでおり、今後は個別指導の面で、更に掘り下げた計画で支援を行ってほしい
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		前日夕方の全体ミーティングの中で注意点を職員間で確認・共有し、当日は変更点のみを個々に情報提供している
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援後ミーティングを行い振り返りと、問題があった場合は改善の検討を行っている。その日不在の職員には業務日誌に記載し、確実に伝達出来るようにしている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			活動や遊びの記録だけではなく、子供の健康状態等も記録し、問題があればミーティング等で検討し、対応策等を施している
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月毎にモニタリングを行い、支援計画会議で期間中の成果と課題を検証評価を行い、それに基づき支援計画見直しの可否を判断している	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			創作活動、余暇等の支援を集団、個別で行っており、今後もガイドラインに沿った活動を取り入れていきたい	
関係機関 や保護者 との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者と児童担当職員及び児童の保護者が参加し、他事業所との情報、意見交換を行って、計画の見直しに反映している
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校からは学校行事や下校時刻等の情報をメールや書面で頂いている。自宅迎えの子供は保護者から情報を頂いている

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現時点で対象者はいないが、今後受け入れをした場合は、主治医等と連絡体制を密にしていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育所関係とは情報共有の体制は取れていないが、就学前の情報は児童発達支援事業所との情報交換等で得ている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	現時点で対象者はいないが、今後対象者ができれば、連携していきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関が開催する研修等があれば積極的に参加し、技術や知識の習得に努めている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	最近では、コロナ感染予防対策のため交流は控えていたが、平年であれば地域の児童館に出向き、障害のない子供と活動する機会を設けている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		小松市自立支援協議会の児童部会に積極的に参加し、情報交換に努めている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話等により保護者とは子供の様子や課題を伝えあい、情報交換に努めている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	保護者とは面談時に相談等に乗っているが、ペアレントトレーニング等の専門的な知識を有した職員がいないので、発達支援センターの研修を紹介している。今後、関係機関での研修を受け、施設内での支援に繋げていきたい
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		職員は子育てや障害についての相談には常に応じているが、適切な助言や支援が不十分とならないように、今後も研修等を受講し、支援の質の向上に努めていきたい
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	施設独自の保護者会は開催していないが、既存の小松市手をつなぐ育成会の事業には積極的に協力している。今後、保護者間の会設立の機運が高まれば、前向きに検討していきたい
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		「こまつ育成会が行う福祉サービスに関する苦情解決の実施規程」により、苦情があった場合、苦情受付担当者(所長等)が迅速丁寧に対応し、苦情内容や改善状況等を苦情解決責任者(局長等)や第三者委員会へ報告するとともに、利用者には事業報告書等により公表している。苦情の申し立てについては、重要事項説明書の交付時等で説明している
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	特に会報は発行していないが、活動内容や行事予定等はその都度、書面やフェイスブック等で知らせている
35		個人情報に十分注意している	○		利用を始める前に、個人情報発信の場合について同意を求めている。写真等使用する際には、その都度確認している
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		言葉や活字では分かりにくいと感じた場合は、目で見て分かるように写真や絵を使う等意思疎通に配慮している
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今年度はコロナ感染予防対策のため、地域の方との交流は極力控えたが、ボランティア団体の慰問のみ受け入れた。今後も感染対策を施しながら地域の方と交流する機会を設けていきたい
非常時等の対応		38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		施設での火災地震等の訓練は年2回(半年毎に一回)実施しており、その他公設の防災センターを利用した防災教育も行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止・身体拘束適正化委員会は設置済みであり、事業所内研修も毎年行っている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束等の適正化のための指針を定め運用しており、事案発生直後に虐待防止・身体拘束適正化委員会や業務前ミーティング等で対応について協議決定し、身体拘束に関する同意書により本人及び保護者に説明同意を得ている。その他、個別支援計画書には安全対応についてとして記載している
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示書による対応は行っていないが、保護者への聞き取りに基づき、調理実習や外食の際、摂取しないように対応している。今後は、指示書提出を保護者に求めている
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった時は報告書を作成し、ミーティング時に職員間で共有している	